

補助事業成果書

1 補助事業の実施方法

子どもたちを中心とする区民や事業者に向け、さらにフェアトレードをはじめとするエシカル消費への理解を深めるため、地域に密着したエシカル消費の啓発活動を行うことを目的に祖師谷・千歳烏山・三軒茶屋エリアを中心に以下の活動を行った。

1) 子ども食堂におけるエシカル消費・フェアトレードのお話し会 目標3か所 → 2か所

未就学児、低年齢の子どもに向けたエシカル消費を理解するためのオリジナル紙芝居を作成し、子ども食堂に参加した親子に向けてお話し会を開催した。親子一緒にエシカル消費の話聞けることで、家庭の中から環境や社会問題に対する意識を育てる機会となることを目的とした。

2) 小学校におけるエシカル消費・フェアトレードの出前授業 目標3校 → 1校

児童自身が取り組める社会課題解決に向けた活動を学ぶための出前授業を検討していた世田谷区立瀬田小学校5年生全児童に向けて出前授業を実施した。学校公開日での実施だったため、保護者にも伝えることができた。

3) アンケート調査：あなたの取り組んだエシカル消費

お話し会や出前授業を行った施設と協力店舗、世田谷産業フェスタにおいて、世田谷区消費生活課が作成したエシカル消費に関するリーフレットと、実際に取り組んだことがあるエシカル消費について問うアンケートハガキつきの啓発チラシを配布。団体拠点および協力店舗に回収ボックスを設置して収集した。

啓発チラシでは、地域にあるエシカル消費のできる事業所（福祉作業所など）を7か所紹介した。

応募方法：

応募用紙に取り組んだエシカル消費の種類、商品名、感想を書いて、郵送または協力店舗に持参する。



3) せたがや産業フェスタで以下の取り組みを行った。

- ・エシカル消費がわかるパネル展示
- ・「あなたがやってみたエシカル消費」に関するアンケート（回答者にフェアトレードのカードとステッカーを贈呈）
- ・エシカル消費に関心のある出展者に消費生活課事業によるエシカ



ル消費のネットワーク事業である「せたがやまごころリレー」の紹介を行った。



4) 商店街への啓発活動

地域の力を集める会（烏山）の会合に参加し、エシカル消費の説明や、団体の活動について紹介した。

2 補助事業の成果の具体的内容

（1）おでかけ食堂でのお話会開催、アンケート配布

- ・11月28日（木） せたがやこどもバル虹
リーフレット・アンケート配布 182組
紙芝居 2回実施 計13名（子ども10名・大人3名）
- ・12月17日（火） 砧子ども食堂 そら豆
リーフレット・アンケート配布 64組
紙芝居 22名（子ども11名、大人11名）





「みんなはちきゅうのヒーロー!」と題した紙芝居で、地球を壊すのは、テレビの中の怪獣だけではなく、私たち人間であること、ウルトラマン商店街を擁する世田谷区として、子どもたち一人ひとりが人と地球を守るヒーローになって生活をするすることで、地球の危機を救えるかもしれない、ということをお話のなかで伝えた。環境や人に被害を及ぼす社会課題の原因となる買い物の仕方や行動を「しくしくショッピング」、反対に、それらの解決につながるエシカル消費を「にこにこショッピング」と名付けて、低年齢の子どもが理解しやすいようにした。多くの子どもが理解し、「ヒーローになろうね!」という会話を親子でしながら帰路につく姿が多く見られた。

今回繋がりを持った子ども食堂では、継続的にコミュニケーションをとり、さらに理解が広まるように働きかけたい。

(2) 小学校におけるエシカル消費・フェアトレードの出前授業 目標 3校 → 1校

・1月17日(金)

世田谷区立瀬田小学校 第5学年 138名(公開授業のため保護者の見学あり)

リーフレット・アンケート配布

2学期から続く連続授業の1コマとして実施

2学期の授業で途は、途上国と先進国との格差をワークで体感し、子どもたちが実際にどんなことができるかを考える準備段階とも言える授業を行った。

それに続く今回の授業では、資源や環境の奪い合いではなく話し合うことによる解決の意義や、世界に存在するさまざまな社会問題は繋がっていることなどをワークで学んだあと、それらを今日からの生活の中で変えていける方法としてのエシカル消費を紹介した。



（３）アンケート調査：あなたの取り組んだエシカル消費

エシカル消費の必要性がわかる説明と、世田谷区内でエシカル消費が実践できる店舗のリストを記載したリーフレットにハガキをつけて配布、実践したことがあるエシカル消費（消費の種類、商品、店舗）を問うアンケートを行った。

上記の出前授業とおはなし会を中心に世田谷区消費生活課が作成したエシカル消費のさまざまな認証マークが記載されたリーフレットといっしょに本チラシを配布することで、親子で取り組むことを目的とした。（年齢制限は設けなかった）

掲載店舗

三軒茶屋

- ・つるかめ食堂（量り売り店）
- ・喫茶 JOY（福祉施設商品、せたがやみやげなど）

祖師ヶ谷大蔵

- ・アトリエそら豆（せたがや育ち・フェアトレードコーヒー、被災地支援品）
- ・わくわく祖師谷（福祉施設商品）

千歳烏山

- ・吉実園（有機野菜、鶏卵ほか）
- ・コミュニティカフェななつのこ（福祉施設商品）
- ・星屋（オーガニック商品、フェアトレード）
- ・ムスビガーデン（有機食品、フェアトレード）

<配布協力>

上記掲載店舗にて各 100 部

出前授業（瀬田小学校 138 部

アトリエそら豆 64 部

せたがや子どもバル虹 182 部

せたがや産業フェスタ 200 部

計 1320 部

<結果>

応募総数 74 通 うちアンケート有効回答 64 通 うち抽選有効回答 54 通

<アンケート集計結果>

エシカルな商品		購入場所・商品の詳細など		
フェアトレードチョコ	7	学校のバザー	オリンピック	ピープルツリー
フェアトレードコーヒー	4	アトリエそら豆		
エシカルコーヒー	1	スーパー		
有機野菜	3	生協		
レインフォレストコーヒー	2	カルディ	マクドナルド	
福祉作業所の製品	12	代田図書館（まもりやま工房）	喫茶 JOY	わくわく祖師谷
寄付付きメニュー	2	マクドナルド		
せたがやそだち	9	ファーマーズマーケット	アトリエそら豆	
地場野菜	3			
途上国の雑貨	1	アフリカの帽子	ユニクロ（タンザニアのプレスレット）	
リサイクル商品	3	三茶大道芸（バッグ）	ペットボトル	
リユース	2			
エコバッグ	2			
太陽光パネル	1			
もぐもぐチャレンジ	2	サミット		
アニマルウェルフェア	1	オオゼキ	小田急 OX	
フェアトレード・エシカル商品	1	MALAOPIPLA		
フードロス	2	オオゼキ	廃棄前の商品、賞味期限の近い商品,を買う	給食で残さない
被災地支援	2	能登のお酒	八重洲いしかわテラス	スターフルーツ、くだしも
平飼い卵	1	西友		
量り売り	11	つるかめ商店		
難民支援に寄附している	1	WELgee		
教育支援	1	Fara		
ゴミを出さない工夫をしている	4	パルシステム	生活クラブ	
油は拭いてから洗う	1			
FSC 割り箸	1			

エシカル商品が取り扱われている店舗が限られていたが、オオゼキ、小田急 OX、サミット、カルディといった大手の流通で多く入手していた。

応募から 5 名にエシカルスペシャルボックスを贈呈

・抽選 2 月 22 日 (土) 15:00-17:00 下北沢集会所にて

有効投票 64 通より 5 名を抽選

当選 AM 様 (桜丘)、NK 様 (下馬)、RH 様 (上馬)、RS 様 (三軒茶屋)、IN 様 (下馬)

ギフト内容 「和綿ダブルガーゼハンカチーフ」(メイド・イン・アース)

「メッセージカード」「フェアトレードチョコレート (助成外)」(ピープル・ツリー)

「ケーブルホルダー」「エコバッグ」(わくわく祖師谷)

(4) 商店街への働きかけ

烏山「地域の力を集める会」に出席し、エシカル消費アンケート、出前授業、お話会の開催協力団体募集についてなどの告知、エシカル消費の説明などを行った。

3 成果の自己評価

前々年度、前年度とシールラリーイベントとパッケージデザインコンテストでマスに働きかけた取り組みから、本年度は 1) お話会・出前授業 2) イベント参加 3) アンケート調査 4) 商店街への個別の働きかけという細かな取り組みを重ねたことで、より丁寧に地球が抱える社会問題とエシカル消費のつながりについて子どもたちに伝え、その後すぐに地域の中でエシカル消費が実践できるような流れを構築した。

お話会を実施した子ども食堂からは、オリジナルの紙芝居を利用したことで、子どもの発達と理解度に合わせて柔軟に対応できたことで、よりよく理解できたとの感想が届いた。当初 3 件実施の予定であったが、1 件実施日の調整が不調に終わり 2 件の実績となった。

また、小学校では、今回行った 2 時間の授業の前に、2 学期に地球の問題について考えるワークを行っており、さらに今回はそれぞれの問題同士が密接に繋がっていることや、話し合いによる対等なやり取りで 2 つの立場の人々が互いの利益をお互いに確保できることを学んでいたため、適切な消費が課題解決の一歩となることをより強く印象づけることができた。当初 3 校での実施を目指していたが、関係者につながるができず、実施団体に問い合わせのあった 1 校での実施にとどまった。

せたがや産業フェスタの出展では、親子連れの来場者が目立ち、子どもが大人に説明する場面も見られた。エシカル消費の拡大のためには、家政を担っている大人の存在が重要で、親子で話を聞く、という体験をエシカル消費の実践につなげることには大変効果的であったと考える。

また、アンケートを通して、地域の大型スーパーがエシカル消費の実践に大きな役割をもっていることがわかった。特にフェアトレードというと、これまでは地域の小さな店舗による取り組みが多かったが、このアンケートの結果により、より多くの人の目につくのが大型スーパーであることがわかった。フェアトレード商品をはじめとするエシカル商材の取り扱いをしているコーナーで丁寧な説明を加えることで、より消費者にフェアトレードやエシカル消費について理解が深まる。フェアトレードやエシカル消費啓発のためのあと一歩前に出ることを提案してみたいと思う。

地域の商店街との連携については、長年千歳烏山で活動する「地域の力を集める会」に参加して、エシカル

消費の資料などを配布することができた。1回では説明も理解も難しいエシカル消費の概要について、繰り返し出席して都度紹介することで、理解が促進されていることを感じている。地域内でのエシカルな取り組みの振興につながるよう継続した関係づくりをしていきたいと考える。